

2万5千分の1の植生図による本県の植物群落は、65群落となっている。それらの群落の価値評価を行うため、環境庁が示した植生自然度をもとに、植生評価度を10段階に区分して群落の評価を行った。さらに、メッシュ内の植生評価度ごとに面積を求め、比例案分により、植物自然充実度を算出した。

例えば、コナラ林(評価度7点)50ヘクタール、スギ植林(6点)30ヘクタール、水田(2点)20ヘクタールのメッシュの場合植物自然充実度は、次式により5.7とした。

$$\text{植物自然充実度} = \{ \text{コナラ林}(50\text{ha} \times 7\text{点}) + \text{スギ植林}(30\text{ha} \times 6\text{点}) + \text{水田}(20\text{ha} \times 2\text{点}) \} \div 100\text{ha} = 5.7$$

## (2) 動物自然充実度

哺乳類、鳥類、昆虫類について、動物間の食物連鎖における生態的地位、生息域の特殊環境その分布域など学術的な調査により、動物種を10段階に区分して評価した。また、面的な生息域の評価は、生息動物の評価度で表わすこととした。さらに、評価の異なる多数の種の生息が確認されている区域の場合は、そのうちで最も高い評価度で代表した。さらに、動物の行動は一定でないことを考慮して、少しでもメッシュにかかる区域で生息が確認されている場合は、メッシュで囲まれた区域全体を同様の評価域とした。

## (3) 自然景観充実度

地形、水、植物などから構成される景観を立地、原景観、水の態様などについて学術的分析を行い、遠望性などの視程、仰角性、広角性などの視界や、形態的な視覚、視地、特異景観などをもとに、山岳景観、山岳荒原景観、田園景観、都市景観など25に景観分類を行った。さらに25の景観分類に10段階の評価度を与え、また、メッシュで区分された県土を、景観分類に従った位置づけを行い、それぞれに該当する景観評価度を各メッシュの面的な自然景観充実度とした。

## (4) 自然環境質指数

自然環境を構成する3要素の中で、植物は最も基本となり、他の項目の評価値にも影響を与えるものである。

動物の生息環境を左右するものは植相であるし、景観の色彩的視覚なども植物の分布状況によるところが大きい。したがって、メッシュごとの自然環境質指数は、植物自然充実度を基本とし、動物自然充実度、自然景観充実度は加算するようにし、次式を自然環境質指数算定式とした。

$$S = P + \frac{1}{n} \{ (A - P) \pi + (L - P) \pi' \}$$

S……自然環境質指数